

王女は王子がグッスリねいったのに気づくと、にっこり笑って、おき上がりました。実はさっきから、上手にねたふりをして、王子がねいるのをねらっていたのでした。そしておき上がるといきなり、ヒョイと小さなハトになって、まどからとび出しました。王女はこういう自由自在な魔法の力をもっているのです。これまでどんな人が番に来て、みんな王女をにがしたわけが、これでおわかりになったでしょう。ところが今夜にかぎって、王女はつい、やりそこなって、まんまと火の目小ぞうとナガナガとに見つかってしまいました。それはハトになって、まどから

とび出すはずみに、暗がりの中にかがんでいたナガナガの頭へ、ぱたりと羽根をぶつけたからです。ナガナガは、びっくりして目をあけて、「おや、だれか、にげ出したぞ。」と、どなりました。火の目小ぞうも目をさまして「どっちだ、どっちだ。」と言いながら、目の玉に力を入れて、くるくる四方八方をにらみまわしました。するとそのたんびに目の中に火の玉がメラメラと、もえ